

あいち病害虫情報 最新情報

令和元年9月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

作物の病害虫

水稻において、トビイロウンカによる坪枯れが東三河地域と知多地域で確認されました。また、県内に設置している予察灯においても、大口町、東浦町、西尾市、豊川市で本虫の誘殺を確認しています。そのため、ほ場をよく観察し、トビイロウンカの寄生を認めた場合は「令和元年度発生予察注意報第6号」を参考に防除等を行いましょ。

尾張地域で白葉枯病が多く発生しているほ場が見られます。詳細は、本日発表の「イネ白葉枯病情報第1号」を参照してください。

8月下旬の巡回調査における吸汁性カメムシの発生量は平年並です。しかし、名古屋地方気象台9月12日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、本種にとって好適な条件となる可能性があります。ダイズでは、被害粒の発生を抑制するために、開花後30日頃を目安に防除を徹底しましょう。その後も発生が多い場合は、7～10日後に再度防除を実施しましょう。

県内のダイズほ場において、シロイチモジヨトウの発生を確認しています。本種はふ化後しばらくは集団で生息し、齢期が進むにつれて次第に分散します。そのため、幼虫の寄生を確認したら、速やかに防除を行いましょ。

果樹の病害虫

豊橋市に設置したチャバネアオカメムシの予察灯における誘殺数が8月第4半旬に急増し、その後平年より多い状況が続いています。名古屋地方気象台9月12日発表の1か月予報によると気温は高いと予想されていることから、今後も果樹カメムシが活発に活動し、果樹園への飛来増加に伴う被害発生のおそれがあります。防除対策等詳しくは、9月2日発表の「果樹カメムシ類情報第4号」を参照してください。

ナシヒメシンクイは、長久手市と豊田市に設置したフェロモントラップでやや多く誘殺されています。秋季はナシほ場への成虫の飛来が続くことがあるので、発生が多いほ場では収穫前日数に注意し、防除しましょう。

モモせん孔細菌病の病原菌は枝や落葉痕部の組織内で越冬し、次作の伝染源になります。8月16日発表の「モモせん孔細菌病情報第1号」を参考に、枝病斑の除去や農薬による秋季防除を実施しましょう。

ナシ黒星病が発生しているほ場では、次作の伝染源を減らすため、秋季防除を実施しましょう。近隣に収穫を控えているほ場がある場合、農薬の使用にあたっては、飛散防止に努めるとともに、収穫前日数に注意しましょう。

ブドウべと病による早期落葉および次作の越冬源量を減らすため、収穫後にICボルドー48Qなどで秋季防除を実施しましょう。また、罹病落葉が次作の第一次伝染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょう。

シロイチモジヨトウの発生多い！

キャベツでは、9月上旬の巡回調査において、シロイチモジヨトウのほ場における寄生株率が過去10年で3番目に高く、フェロモントラップにおける誘殺数もここ数年と同様に多い状況が続いています。名古屋地方気象台9月12日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されているため、今後も多く推移すると予測します。ほ場での発生に注意し、

防除を徹底しましょう。防除対策等は、8月2日発表の「令和元年度病害虫発生予察注意報第5号」を参考にしてください。

ダイズ、野菜類、花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数はダイズではやや少なく、野菜類、花き類では平年並です。食害や幼虫を確認したら、防除を行いましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、田原市のキャベツほ場に設置したトラップではやや多くなっています。ダイズではこれからの時期は子実も加害されます。キャベツでは結球部に食入すると防除が難しくなり、キクでは、生長点付近や花蕾が食害されるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。防除については、8月2日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

コナガのキャベツほ場での発生量は平年並です。ほ場をよく観察し、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

キャベツほ場でのハイマダラノメイガの発生量は、9月上旬の巡回調査では平年並ですが、育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

アブラナ科野菜の細菌性病害に注意！

黒腐病、軟腐病などの細菌性病害は降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は、病原菌の侵入口となるので、台風などの激しい風雨によって傷ができた場合や、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。名古屋地方気象台9月12日発表の1か月予報によると、降水量は平年並の見込みですが、悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

イチゴ炭疽病、萎黄病

両病害ともに、気温が高いと発生が助長されます。また、炭疽病は台風などの風雨で発生量が増加します。発病苗や発病が疑われる苗は定植しないようにするとともに、本ぽで発生を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

イチゴのハダニ類

イチゴのハダニ類は、8月下旬の育苗ほにおける調査で発生量が多いほ場が散見されました。本ぽにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。

トマト、ミニトマトの黄化葉巻病、黄化病

トマト、ミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類を防除するとともに、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820